

(1) 新型コロナウイルス感染症の発生状況及び国・県・市の対応状況について

① 新型コロナウイルス感染症の発生状況

ア 新型コロナウイルス感染症の発生の経緯

○令和2年1月6日厚生労働省発表

・令和元年12月12日から中国において原因不明肺炎の発生の報告（12/29まで59例）、感染経路不明、ヒト→ヒト感染の明らかな証拠はない、医療従事者の感染も確認されていない。

・発生場所の疫学的な特徴：海鮮市場と関連した症例が多い。野生動物を販売している区画もある。現在は閉鎖中。

・類似疾患の可能性：インフルエンザ、鳥インフルエンザ、アデノウイルス、SARS、MERS は否定されている。

○令和2年1月15日 国内で感染者1例目報告

○令和2年1月30日 国内での人から人への感染を発表

○令和2年1月31日 WHO「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当すると発表

○令和2年2月13日 国内死亡1例目報告

イ コロナウイルスについて

人や動物の間で広く感染症を引き起こすウイルスです。人に感染症を引き起こすものはこれまで6種類が知られていますが、深刻な呼吸器疾患を引き起こすことがある SARS-CoV（重症急性呼吸器症候群コロナウイルス）と MERS-CoV（中東呼吸器症候群コロナウイルス）以外は、感染しても通常の風邪などの重度でない症状にとどまります。

ウ 新型コロナウイルス感染症の現時点で把握している特徴【2月25日時点】

<感染の仕方>

一般的には飛沫感染、接触感染。空気感染は起きていない。閉鎖した空間で、近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどがなくても感染するリスクがある。

<感染力>

感染力は事例によって様々。一部に感染者から多くの人に感染したと疑われる事例がある一方、多くの事例では感染者は周囲の人にほとんど感染させていない。

＜一般的な症状と重症化するリスク＞

発熱や呼吸器症状が1週間前後つづくことが多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多い。季節性インフルエンザよりも入院期間が長くなる事例が報告されている。罹患しても軽症であったり、治癒する例も多いとされている一方、重症度は、致死率がきわめて高い感染症（エボラ出血熱等）ほどではないものの、季節性インフルエンザと比べて高いリスクがある。特に、高齢者や基礎疾患を持つ方では重症化するリスクが高まる。

エ 国外の発生状況について（2月27日10:30現在 厚生労働省発表資料より）

国名	感染者	死亡者	国名	感染者	死亡者
中国	78,497名	2,744名	フランス	18名	2名
香港	91名	2名	イタリア	400名	12名
台湾	32名	1名	フィリピン	3名	1名
韓国	1,595名	12名	イラン	139名	19名
			外37か国	425名	0名
			計	81,200名	2,793名

オ 国内での発生状況（2月27日12:00現在 厚生労働省発表資料より）

○PCR検査実施人数 2,058人

○PCR検査陽性者 186人（167例の患者、19例の無症状病原体保有者が確認）

【内訳】

・患者167例

（国内事例156例（内 死亡例3例）、チャーター便帰国者事例11例）

・無症状病原体保有者19例（国内事例15例、チャーター便帰国者事例4例）
うち日本国籍146名、調査中24名である。

カ クルーズ船での発生状況について

2月3日に横浜港に到着したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」については、延べ4,061名について、新型コロナウイルスに関する検査を実施したところ、陽性が確認されたのは705名（うち無症状病原体保有者延べ392名）。

キ 厚生労働省から国民の皆様へのメッセージ

○ 国民の皆様におかれては、風邪や季節性インフルエンザ対策と同様にお一人お

一人の咳エチケットや手洗いなどの実施がとても重要です。感染症対策に努めていただくようお願いいたします。

○ 次の症状がある方は「帰国者・接触者相談センター」にご相談ください。

・風邪の症状や 37.5℃以上の発熱が 4 日以上続いている。

（解熱剤を飲み続けなければならないときを含みます）

・強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある。

※ 高齢者や基礎疾患等のある方は、上の状態が 2 日程度続く場合

センターでご相談の結果、新型コロナウイルス感染の疑いのある場合には、専門の「帰国者・接触者外来」をご紹介します。マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて受診してください。

なお、現時点では新型コロナウイルス感染症以外の病気の方が圧倒的に多い状況であり、インフルエンザ等の心配があるときには、通常と同様に、かかりつけ医等に御相談ください。

【相談後、医療機関にかかるときのお願い】

○ 帰国者・接触者相談センターから受診を勧められた医療機関を受診してください。

複数の医療機関を受診することはお控えください。

○ 医療機関を受診する際にはマスクを着用するほか、手洗いや咳エチケット（咳やくしゃみをする際に、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえる）の徹底をお願いします。